

産物自治会 20世帯

菊地 新太郎さん(71歳)



昭和47年の水害後、堤防が完成



「まとまりの良い地域です」

ここは米代川の対岸にある鶴形地区に属しています。農協は東雲支所、学校は朴瀬小・東雲中ですが、行政区の変更は財産区の問題もあり、棚上げの状態です。ほとんどが鶴形や檜山の寺の檀家です。

昭和47年の水害後、堤防や耕地が整備され、被害がなくなりました。それまでは、少し雨が連続と田が冠水していました。昔は、鶴形から船に馬を乗せて田の耕作に来る人もいましたが、今はいません。

お盆に、盆踊りやカラオケ大会をしていましたが、今は夕涼み会に変わりました。1世帯2千円で、食べ放題・飲み放題です。帰省客も懐かしがって参加します。

住民のまとまりが良く、特に不幸があった家には、葬儀に呼ばれない家でも、顔を出して何かと手伝いに行きます。

能代火力3号機の建設繰延白紙撤回を求めて



5月31日～6月2日、市内6カ所で行った街頭キャンペーンを行いました。多くの市民が“わたしたちとの約束を守って”と抗議ハガキで熱い思いを伝えていました。

いつも元気



「やったー！
つかんだぞ」
いっしょけんめい走ったり、飛んだりして楽しい遠足だったよ。
(5/24 風の松原で)

のーろ逍遙

歴史と民俗のあいだ

5

百万遍 (五)

(古内 龍夫)

百万遍について最新情報を入れてもう一度触れてみます。百万遍は、春は三月の送り彼岸の次の日、秋は各地区まちまちで、農作業が終わった十月末から十一月にかけて行われるようです。鶴形では春の百万遍を四月に行っています。海蔵寺を開催場所としていることから、お寺で仏事がある場合は臨機応変に開催日をずらしています。

今年、鶴形では境の守り神、鍾馗様が一新しました。四月二十五日の広報で紹介した鍾馗様は、本体が二十数年前に作られたもので、衣装が、時々替えられてきました。鍾馗様が洋服を着たり、交通安全のタスキを掛けて、現代風にアレンジされてきました。しかし百万遍についての関心が高まると、老人クラブでは本来の姿に戻そうと決議をし、山から風倒木の根を掘りだし、顔を彫刻して本体をつくり、ワラやムシロを使って昔風の鍾馗様を作りました。百万遍の日、その新しい鍾馗様に御幣を立て、供えものをあげてお参りしていました。男は男らしくひげをたて、女は女らしく口紅を付けています。ただ、この男女の区別については、下部は男女の区別はないという説や下坂は男女両性だという説があります。先の服装の問題といい、語り伝えられていく中で、回帰や変容を遂げていく民俗の一面を見ることが出来ます。



2002.4.21 新しい鍾馗さまの前で